

自治区07

ホンマタカシ

ニードキュメンタリー映画



『First, jay comes. / 最初にカケスがやってくる』(2016年  
/ 日本 / 225分 / カラー / 16:9 / 日英字幕)

時代の乾いた雰囲気や、被写体との独自の距離感で知られるホンマタカシの写真。建築、波、東京の子ども、郊外風景など、さまざまなテーマを手がけ、その多くが長い時間をかけてシリーズ化されています。物語や感情を表現することを嫌い、被写体をただ映し取るというドライな視点は、表現か記録かを問われた時代から進んで、そのどちらに寄ることもない「ニードキュメンタリー」の名にふさわしいものといえます。

一方で2002年より映像作品の制作も手がけており、近年には『After 10 Years』など長編映画を制作しています。今回の〈自治区07〉は、写真を媒介としながら映画や音楽など、さまざまな領域に越境し続けるホンマタカシの核心を、「エゾシカ」にフォーカスしながら映画『最初にカケスがやってくる』の上映とライブ、そして実食会と組み合わせるあぶり出そうとするものです。

是非、事前告知、ご取材をお願い申し上げます。

### 「自治区」について

今年度、金沢21世紀美術館が立ち上げた自主自由自立自律自治をコンセプトにした活動区の総称。美術に限らず科学、歴史、社会学など、学際的に他の領域を横断しつつ、年間を通してライブ、映像上映、トーク・シリーズ、滞在制作、身体表現など多様なプログラムを継続的に実施。「自治」をキーワードに、外部コミュニティとの連携・協働を通じて、これまでの美術の領域を超えるべく実験的なアクティビティを展開するものです。公式サイト <http://jichiku.com>

イベント名	自治区07 ホンマタカシ ニードキュメンタリー映画
期間	2018年1月27日(土) 開場13:30 開演14:00 終了20:00(予定)
会場	金沢21世紀美術館 プロジェクト工房
料金	3,500円
定員	30名 ※暖かい服装でお越しください。
チケット取扱	ローチケHMVにて発売中(Lコード: 54663)
主催	金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]
配給協力	mejiro films
お問合せ	金沢21世紀美術館 学芸課 TEL 076-220-2801

取材申込み／問合せ先

金沢21世紀美術館 広報担当:川守(広報室) 事業担当:中田(学芸課)、森(交流課)  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)  
※ご取材の際には、事前にご連絡をお願いします。



## プロフィール



## ホンマタカシ

1962年東京生まれ。写真家。1999年、写真集『東京郊外 TOKYO SUBURBIA』（光琳社出版）で第24回木村伊兵衛写真賞受賞。2008年、ニューヨークのApertureから写真集『TOKYO』を刊行。1993年から2007年までの間に東京をテーマに撮影した作品が収録され、それまでの集大成的な内容になっている。2009年、単行本『たのしい写真 よい子のための写真教室』（平凡社）を刊行。このほか主な写真集に『Babyland』（リトル・モア／1995年）、『Hyper Ballad: Icelandic Suburban Landscapes』（スイッチパブリッシング／1997年）、『東京の子供』（リトル・モア／2001年）、『Tokyo and my Daughter』（Nieves／2006年）、『NEW WAVES』（PARCO出版／2007年）、『trails』（マッチアンドカンパニー／2009年）、『widows』（Fantombooks／2010年）、『M』（ギャラリー360°／2010年）などがある。写真作品以外にも、長編映画として『きわめてよいふうけい』（2004年）『After 10 years』（2016年）、『あなたは、あたしといて幸せですか？』（2016年）を発表。2010年より東京造形大学大学院客員教授。  
<http://betweenthebooks.com/>

## プログラム

## 上映／ライブ（14:00～18:00）

## 上映作品：『最初にカケスがやってくる』225分バージョン

ホンマタカシは2000年代後半より北海道・知床のエゾシカ猟に同行し、撮影してきた。真冬の雪山で猟師は1頭のエゾシカを仕留める。血抜きされ、解体された後、エゾシカの内臓はその場に置き去りにされる。それはどのように他の動物たちに捕食され、消えていくのだろうか。定点観測のカメラが約4時間にわたってワンカットで記録した映像が、エゾシカの行く末を描き出す。従来の「ドキュメンタリー」の概念は、ホンマによっていかに「ニュードキュメンタリー」として更新されるのだろうか。

## ライブ：Deer Revenge

鹿のマスクを被ってプレイする謎の覆面バンド〈Deer Revenge〉。10月のニューヨーク公演を成功させがい旋帰国した彼らの金沢初公演。ポストロックからノイズへと、オルタナティブのさらに周縁を走り続ける「鹿の復讐」に刮耳せよ。

\*\*\*\*\*

## エゾシカ実食会（18:00～20:00）

エゾシカ肉の多くは自家消費されるに過ぎず、広範かつ有効に食されているとは言い難い。この問題はホンマタカシが本作制作の動機の一つとなっている。かつてエゾシカ料理のみを提供する「エゾシカフェ」を運営し、現在も獣肉食文化の普及に努める石崎英治が腕を振るうエゾシカ料理に舌鼓を打ちつつ、狩猟から解体、流通、そして食物としてのエゾシカについて思いをはせる。（1ドリンク付）

## 石崎英治

1978年生まれ。株式会社クイーズ代表取締役。北海道大学大学院農学研究科で林学を修めるが、研究フィールドの天然林がひと冬でエゾシカに食いつくされたのを見て、研究対象を森林からシカに変える。国内狩猟肉の製造や卸売業を営む傍らで、シカやイノシシなどの野生獣肉を〈伝統肉〉と再定義した「NPO法人伝統肉協会」理事長として、獣肉食文化の普及啓発にも尽力中。